

和歌山大学の猫たち

レベッカ・モリセー
交換留学生 フランス

みなさんこんにちは。レベッカと申します。パリ第七大学からの留学生です。

去年9月に、一年間、交換留学生として、和歌山に来ました。

一年間日本に住むのは私の夢でしたが、日本に来てから、だんだん寂しくなってきました。家族やら友達やら自分の国のことを思い、ホームシックになりました。他の留学生と同じように、私は自分の部屋で日本語を勉強したり、図書館で日本語を上達させるために多くの時間を費やしています。

しかし、勉強ばかりしていると、友達を作ったり、新しい人と出会ったり、あるいは他の国の友達と日本で会う機会がありません。この孤独感は、日本人であろうと外国人であろうと、家から離れて和歌山住んでいる学生は同じような孤独感を感じるでしょう。

しかし、和歌山大学のキャンパスには、学生たちに笑顔を与えることが一つあります。それは猫です。和歌山大学のキャンパスには、それぞれ異なる習慣や性格を持つ約10匹の猫がいます。

少し野生的な猫もいるし、社交的な猫もいるので、猫たちに近づいて気楽に話しかけたり、なでたりすることができます。これはばからしいと思う人もいるかもしれませんが、毎日、学生の生活に少しの幸せをもたらしてくれます。

それぞれの猫はトラネコですから、先生たちや学生たちがエサを与えて猫を育てます。



私もそれに参加しているので、日本人と話すことの良い機会になっています。「可愛いですね」とよく聞きます。そして、そのあと、日本人はいつも私に「どこから来ましたか。」とか「留学生ですか。」とよく聞きます。たわいない話ですが、私には良い感じがします。少しですけど、日本人と猫たちについて話すのは楽しいです。

それに「猫クラブ」があります。みんなは猫たちにエサあげて、猫の健康もチェックしています。このク

ラブでは、初めてあう学生同士が友達になります。とても良いことだと思います。

和歌山大学の猫たちのお陰で、日本人の先生や学生と心が温まる話ができただことは、私の留學生活に少しの幸福感を与えてくれました。